

語ろう

人権と平和

戦争をなくそう！ 高齢者福祉の充実を！

2026
第22回

茨城県高齢者大会 in 土浦

2026年2月14日 土

茨城県県南生涯学習センター（土浦駅西口前）

受付 10:00
分科会 10:30~12:00
全体会 13:00~15:30
参加費 500円（資料代）

講演（対話方式）
ジャーナリスト

青木 理 氏

- 人権と平和 -



主催：第22回茨城県高齢者大会県南実行委員会

連絡先：090-9812-0455（高久）
090-9369-1559（末永）

第22回茨城県高齢者大会in土浦

●分科会 10:30～12:00

第1分科会

気候変動

講演：歌川 学氏

(国立研究開発法人産業技術総合研究所研究者)

気候変動の悪影響について、省エネ再エネ対策ができること、対策は家計・経済にも良い（手取りを増やす）などを紹介します。

第2分科会

医療・介護

医療、介護の改正案がについての問題点と要求を明らかにします。

高額療養費制度及び高齢者の医療費負担増、現役世代の保険料負担軽減の保険負担見直しなどどうなるの？

解説：赤津義和氏（茨城保健生協専務理事）

第3分科会

なんでも語ろう

＝世代を超えて語ろう＝

若い世代、現役世代、高齢者にそれぞれ思うことを語ってもらい、ディスカッションします。

高齢期運動のめざすもの

日本の高齢期運動は、一貫して「まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう」を合言葉にしてきました。私たちが本格的に高齢期運動を始めたのは、30年前の1987年の第一回日本高齢者大会の頃です。

1970年代初めには多くの自治体が高齢者の生活の向上、長寿を目指して老人医療費を無料にし、国も老人医療費を無料（1973年）にしました。しかし、1980年代になり、第二次臨時行政調査会（第二臨調）が健康保険の赤字解消などを理由に社会保障費の削減をかけた、同時に「高齢者の増加は、社会保障収支の悪化を招く」「医療費の増大は国を滅ぼす」などの論議が繰り返され老人医療費が有料化（1983年）になりました。

この1980年代の中盤は、家族制度の崩壊や都市部での人間関係の希薄化が社会問題になり始め、社会構造が大きく変わり始めた時期でもありました。それまでにも高齢者の就業問題や医療や福祉の問題は取り上げられていましたが、高齢者自身の運動として、高齢者同士が手を結び、自分たちの人生を豊かにしようとして立ち上がり始めたのはこの頃からです。

会場案内図

